

北山のおいしい話

たなかのパン(田中製パン)

初代田中茂一さんは、新高製菓で修業を積み、大正5年に栗並で製菓店を始めました。台湾の新高製菓は、古場の森平太郎さん(作家 北方謙三の曾祖父)が創業者です。

現在は、たなかのパンとして親しまれています。しゃくなげの里や観光案内所などでも購入できます。人気のクルミパンだけでなく、餡メロン・ピザパン・食パンと、どれをとっても外れなしのおいしさです。



北山饅頭(光石商店)

北山饅頭は、初代光石又三さんから、変わらぬ味を引き継いでいます。“又しゃん饅頭”と呼ばれ親しまれてきました。定番の北山饅頭や、やぶれ饅頭のほかに、そば饅頭、甘酒饅頭、味噌饅頭新平様もあります。どれも上品な味わい。



浜ちゃん(濱本鮮魚店)

山間にいながら玄界灘の新鮮な魚を食べることができるのは、この店があるからです。毎朝、唐津から仕入れた新鮮な魚が店頭並びます。ネタの大きな握り寿司も、人気商品。一度食べたら、浜ちゃんファン間違いなし。



中原の観音さま

原口治さんは、「毎年8月18日に、十八夜というお祭りがあった。佐賀にわか筑紫美主子一座が、毎年舞台を務めた。前日には、舞台掛け。当日は、早朝からの場所取りの勝負だった。県外からも客が来ていた。」と当時の賑わいを語られました。観音堂は、今も地域の方が大切に守っています。



あなたも北山へ 移住者募集中

北山は、少子高齢化が進んでいる地域です。しかし、家族で移住してこられる方もいらっしゃいます。

村上家の皆さんは「大自然の中で、コミュニティのあるところで子育てをしたいと思い、移住してきました。大自然にたくさんのお話を教えられるながら、のびのびと育てていくことができます。」と話されています。



北山校と江藤新平

北山校は、「人よし 水よし 空気よし」のキャッチフレーズにあるように、自然の恵みにあふれる学校です。

明治5年、政府は『邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す』として、佐賀藩出身の江藤新平・副島種臣等が中心となって、学制を公布、教育令に基づいて学校の開設を全国に勧めました。北山でも明治11年に、栗並・大野・麻那古に小学校が開設されました。以来、北山の地で、教育が大切にされてきたのは、寺子屋での江藤新平からの直接の教えが根っこにあるからでしょう。

佐賀市立小中一貫校北山校は、山間にある全校児童生徒56人の小さな学校です。ガラス張りの特徴的な体育館が目印です。嘉瀬川ダム建設に伴って人口が減りましたが、ふるさと北山の魅力を、多くの方々に知ってもらいたいと思い、このパンフレットを作成しました。ぜひ歴史ある北山の地に足を運んで、その魅力を感じてください。

令和3年 北山校児童生徒会

北山校発

北山の魅力再発見

「北山もいあげ隊」



神水川



北山校

北山の歴史ロマン あれこれ

乳母神社と神武天皇

下無津呂の久保田史郎先生は、著書『神武天皇は佐賀北山で生まれたのか』で、対馬と北山と奈良には共通した地名があることや、乳母神社を始めとした北山の神社についても考察をされています。

地名と姓の謎

北山には「大串さん」がいけないわけ

北山には、麻那古・上無津呂・下無津呂・中原・大野・大串・栗並という地名があります。麻那古・無津呂・中原・大野・栗並さんの姓はありますが、大串さんはいません。逆に「八段(はったん)さん」は、大串だけでなく白石町築切に八反と表記を変え地名として残っています。富士町古湯に川崎川や川崎姓があることを知った、白石では少ない川崎さんは、「先祖は富士町から来た」と見ているとか。白石周辺に大串姓が多いことから、広い土地を求めて、北山から移住されたのかもしれない。白石平野とのつながりは、嘉瀬川ダムの水だけではなさそうです。

平家の末裔

壇ノ浦の戦いで、平家の武者たちが博多湾を経て山を目指したと言われていました。長野峠から雷山を越えて、上無津呂辺りに隠れ住んだかもしれません。佐賀新聞の投書欄に「下無津呂には『平なにかし』の墓碑銘があったと古老の言い伝えがあった。」と書かれているのを読みました。上無津呂の家々は数件ずつ点在していて、立派な造りになっています。歴史ロマンをかきたてられる話です。

二つの顔をもつ「羽金山」

上無津呂と福岡の県境界にある、標高900メートルの羽金山には、日本に2つだけの施設があります。それは電波塔で、電波時計の信号はここから送られ、日本標準時間を片時も休まず送り続けています。

また、太閤秀吉が埋めたとされる埋蔵金伝説もあります。



忘れてはならない！中村富可男先生

中村富可男先生（1922－1963年）は、北山小学校に勤務されていた昭和38年1月28日、60年振りの豪雪のため、川頭の児童を送り届けた後、山端の児童の様子を見に行く途中遭難し、殉職されました。

北山校の敷地に建つ碑には、遭難の4日前に詠んだ自作の「休校の知らせを終えて帰途につく 路上の子らはスキー楽しむ」も刻まれています。



北山校では、毎年1月下旬に家族の方をお招きして「中村先生を偲ぶ会」を行っています。また、文化発表会では、中村先生の殉難を描いた第44回佐賀県文学賞を受賞した小説『赤い雪』を脚本化した、劇「赤い雪」を3年に1度、中学部の生徒全員で上演しています。



「金福寺」 江藤新平が居住した寺

金福寺は、正応3年（1290）の創建と伝えられる、富士町最古の禅寺です。幕末から明治にかけて活躍した佐賀の七賢人の一人、江藤新平が居住した寺で、北山校の真向かいにあります。鍋島直正公に脱藩の罪で永蟄居を命ぜられ、居住しました。直正公が亡くなられた際には、江藤新平が葬儀委員長を務めたことから見ても、多大な信頼を受けていたことが分かります。

また、代官の富岡敬明とは、剣の道場で腕を磨いた旧知の仲でした。江藤新平は、子どもたちに寺子屋を開いていたので、北山には直接教えを受けた先人がいたのです。

裏山には、危険が迫ったときに身を隠したとされる洞穴があり、近くの大野代官所とつながっていたともいわれます。金福寺は、司馬遼太郎の小説「歳月」にも登場します。

このあたりには、中世から近世にかけての遺構などが多く存在しましたが、ダム工事で失われました。代替え地や道路の造成工事のためかさ上げされ、古い写真と比べると金福寺の石垣も、低く感じられます。（モノクロ写真右上が金福寺）



大野代官所跡（佐賀市文化財）

大野はかつて小城藩に属していました。1859年 藩士の富岡敬明が二代目山内目代に赴任したと記録にあります。富岡敬明は、代官在任中の1862年、佐賀藩を脱藩により永蟄居になっていた江藤新平を、代官所の北にある金福寺に住まわせて、寺子屋を開かせたと伝えられています。現在も、江戸後期の石垣が残っています。



江戸時代から残る「吉村家住宅」

上無津呂には江戸時代から残る吉村家住宅があります。住宅の改築をしようとして、寝室桁継手部に『天明九歳四月 大工藤原村 羽右衛門』という墨書が見つかり、国の重要文化財に指定されました。天明9年(1789年)に建てられたと考えられます。屋根は寄棟造りの茅葺きで、佐賀県の山村に多く見られる、棟が一直線の直家形式の代表的な家屋の一つです。昭和58年に復元修復されました。



「神水川パークゴルフ場」

神水川パークゴルフ場は、嘉瀬川ダム建設に伴って北山に作られた観光施設です。第2ダムのほりにあり、自然に囲まれた中で、老若男女、障害の有無を問わず誰もがプレーを楽しむことができます。おいしい空気を吸いながら、水と緑を同時に味わえるレジャースポットです。売店には、富士町のお土産もあります。近くの西の谷の棚田や肥前狛犬のある大串社(櫛田神社)へも、ぜひ足を延ばしてみてください。



日本の棚田百選「西の谷の棚田」

西の谷の棚田は、日本の棚田百選に選定されています。石積み構造で、亀岳(標高740M)の麓にあり、53戸の大集落からなる大串集落の中の一部に位置しています。棚田周辺には杉林や雑木林があり、春はレンゲ草、夏はひまわり、秋はコスモスや彼岸花と四季折々の表情を見せ、地域住民に自然の恵みと安らぎを与えています。また、雪景色も大変風情があります。棚田の見頃は、田植え時期(代掻き5月上旬・田植え5月中旬)や稲刈り時期(8月下旬から9月上旬)です。

